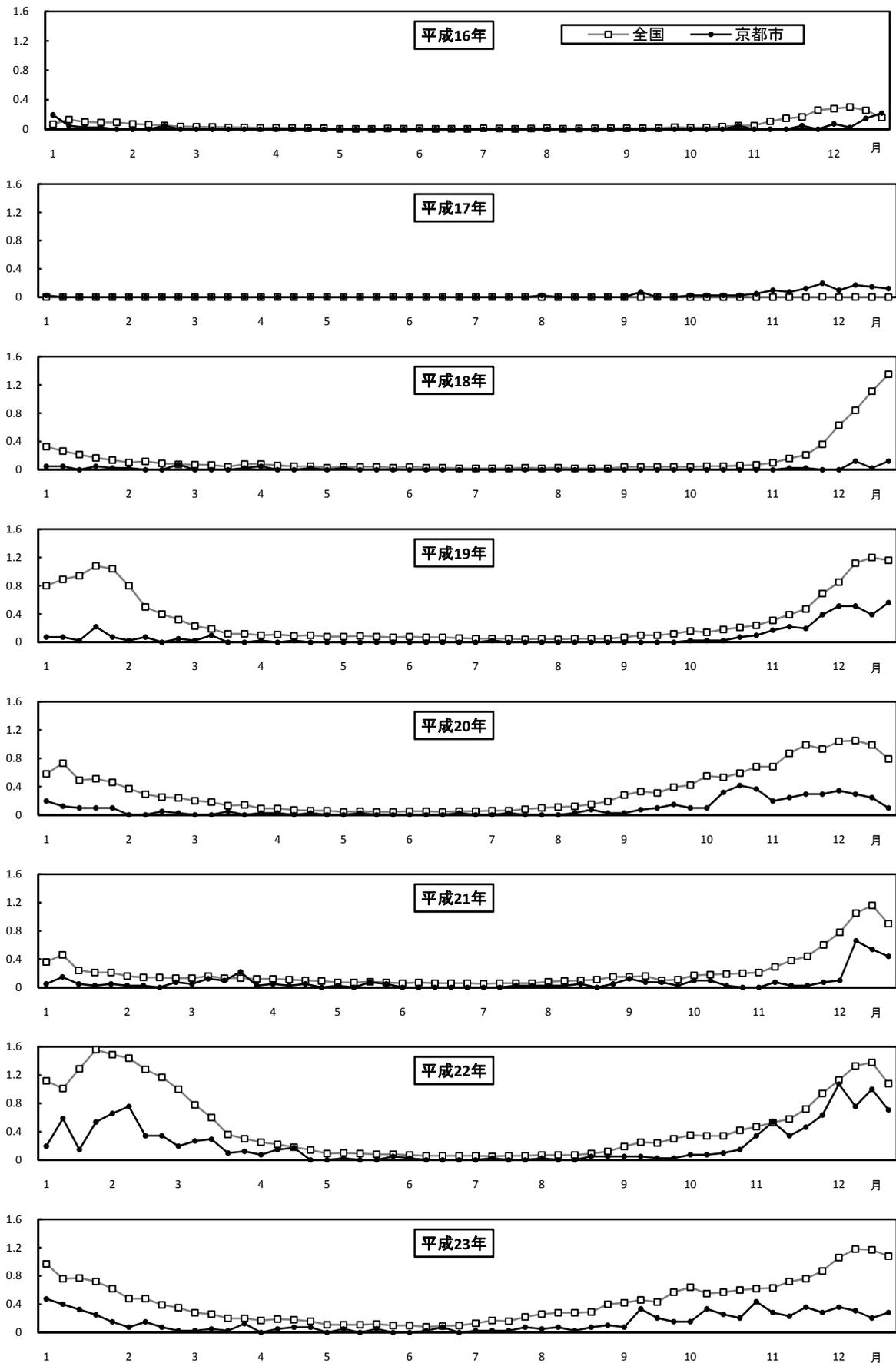


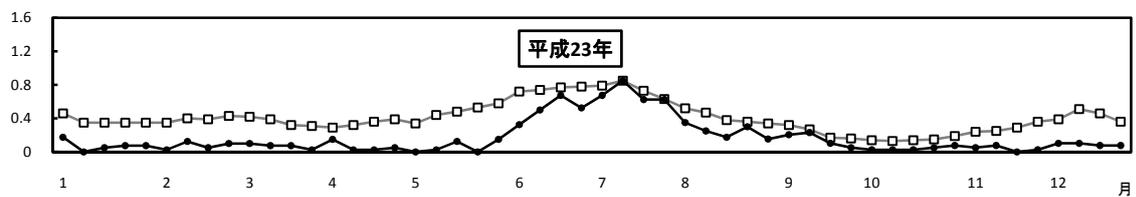
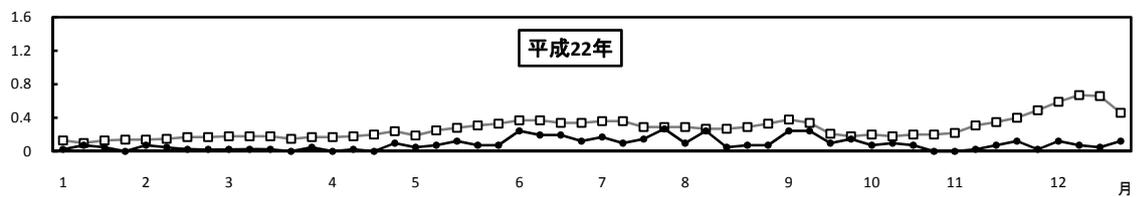
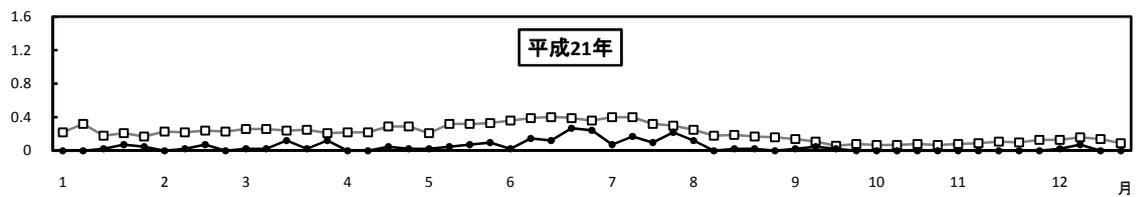
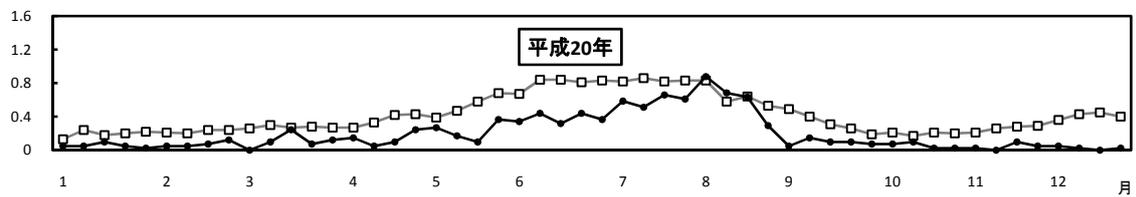
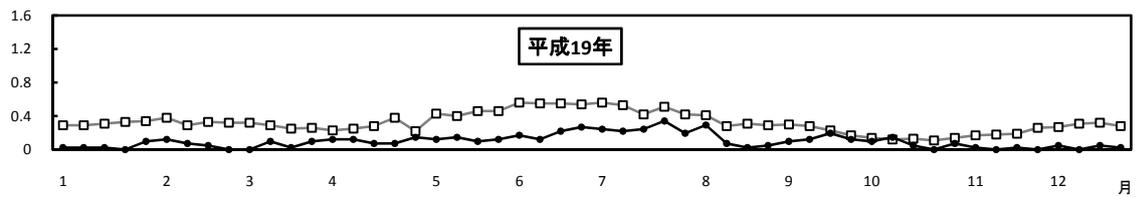
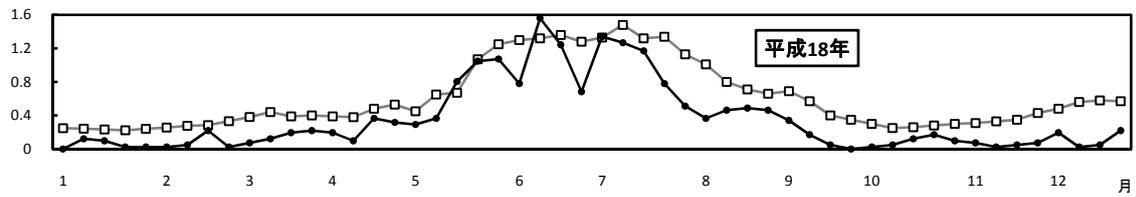
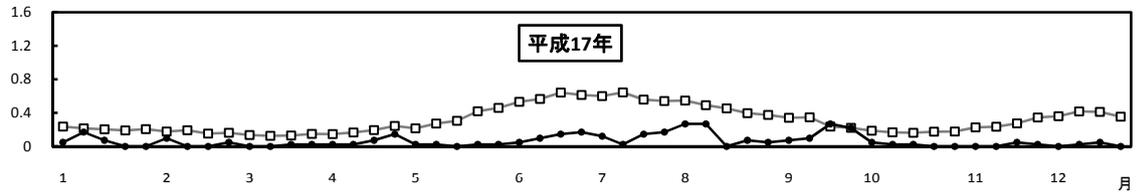
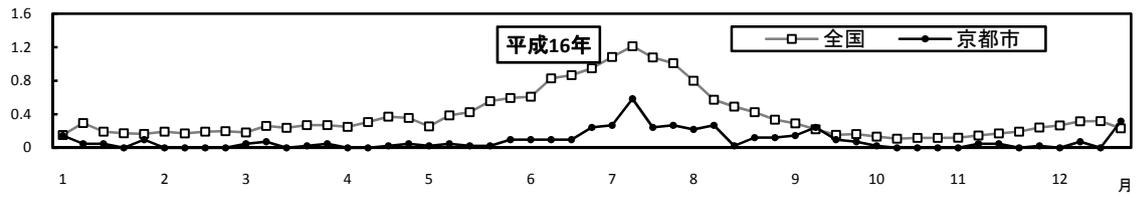
RSウイルス感染症

週別定点当たり報告数の推移

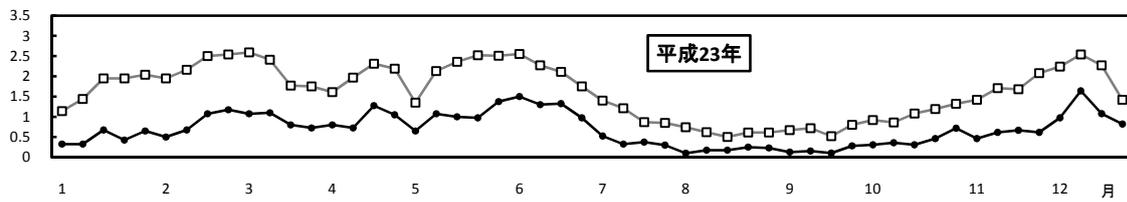
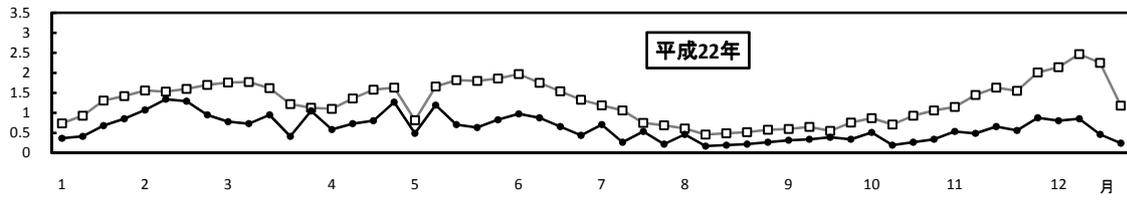
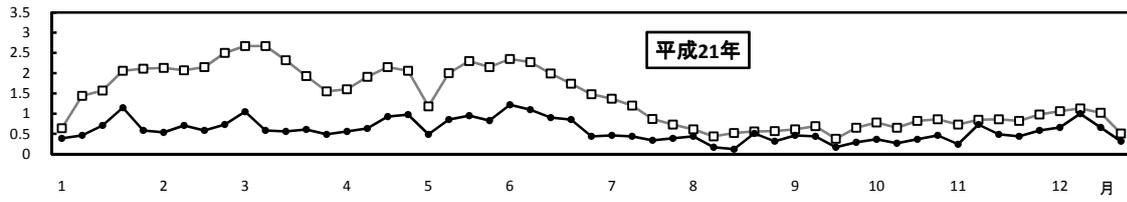
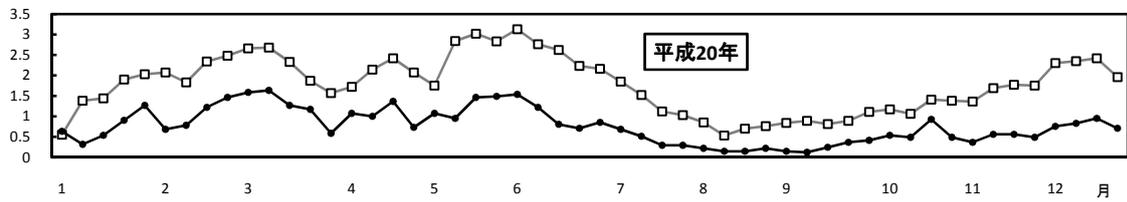
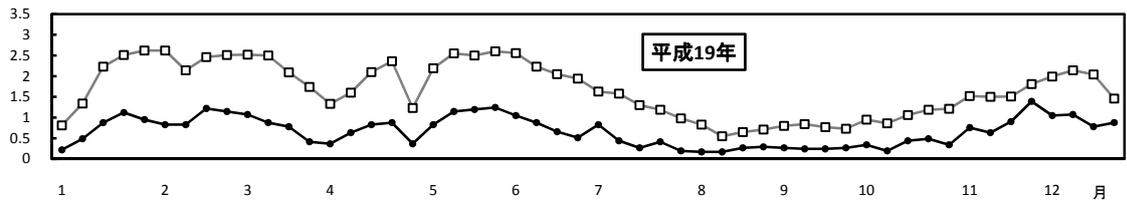
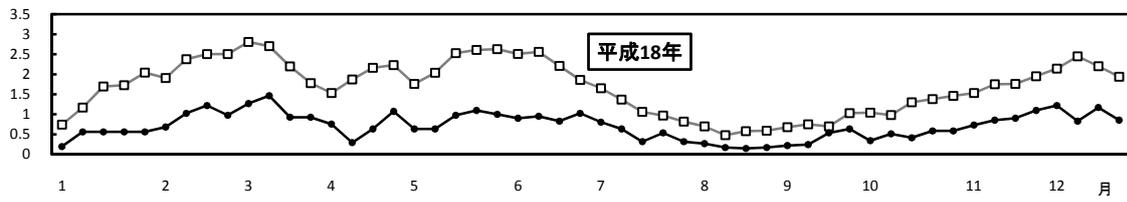
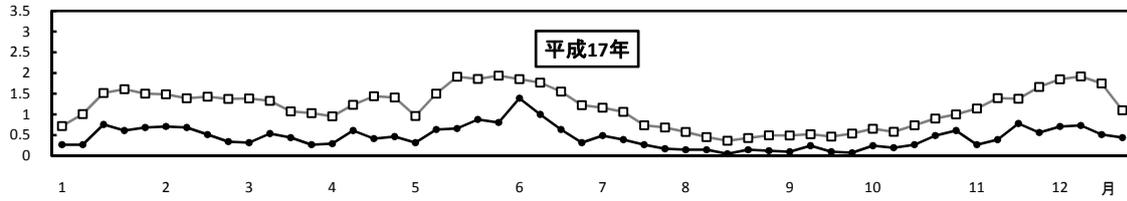
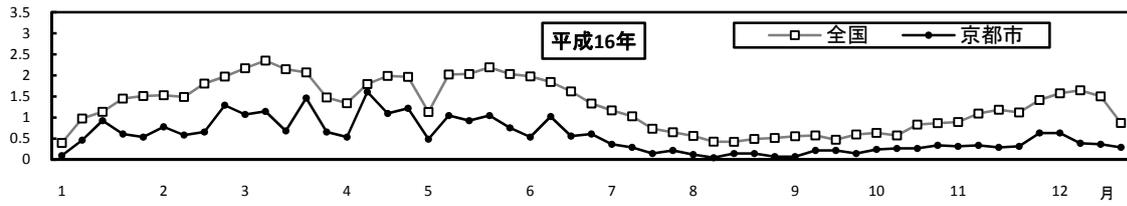


咽頭結膜熱

週別定点当たり報告数の推移

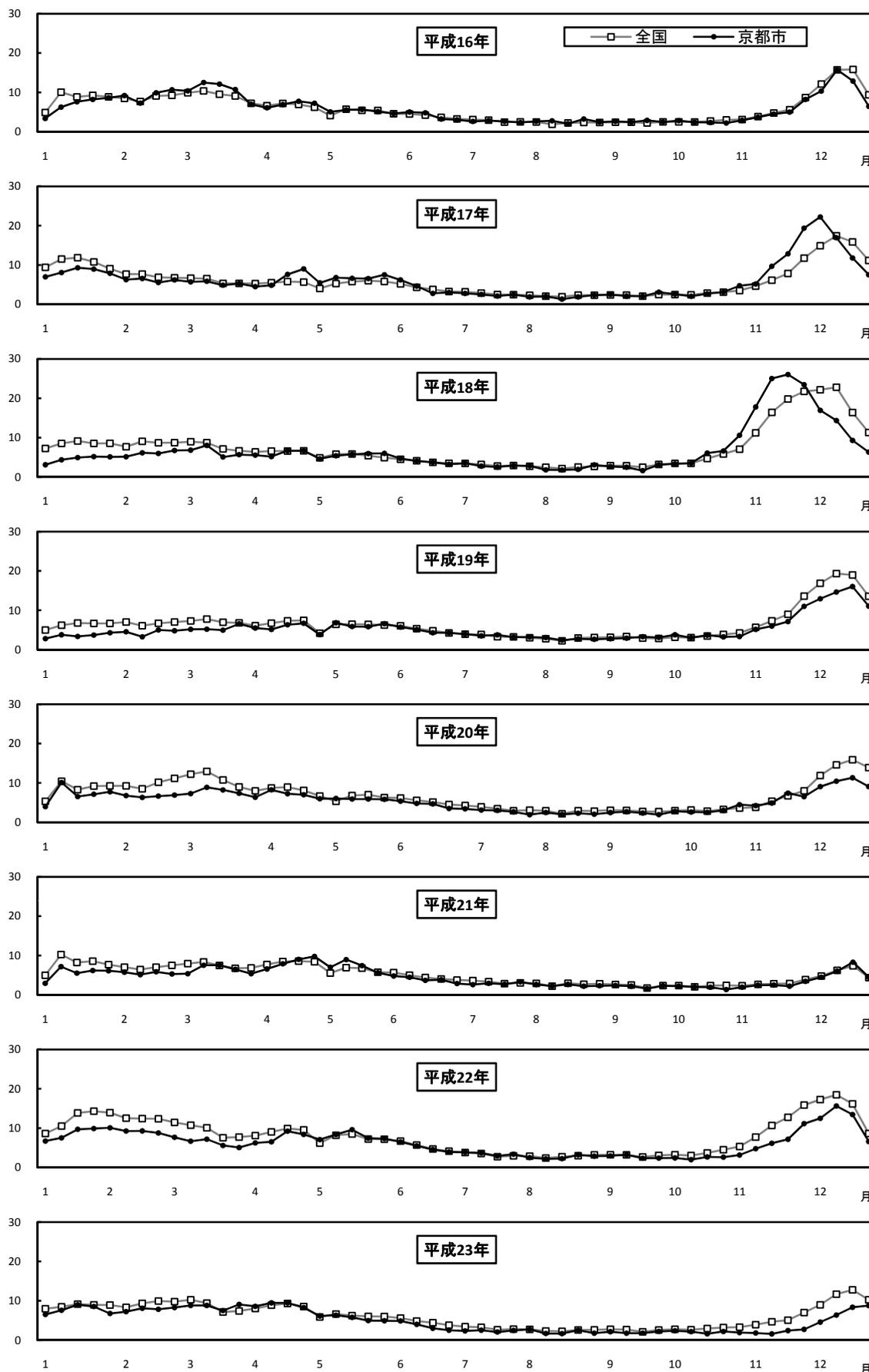


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 週別定点当たり報告数の推移



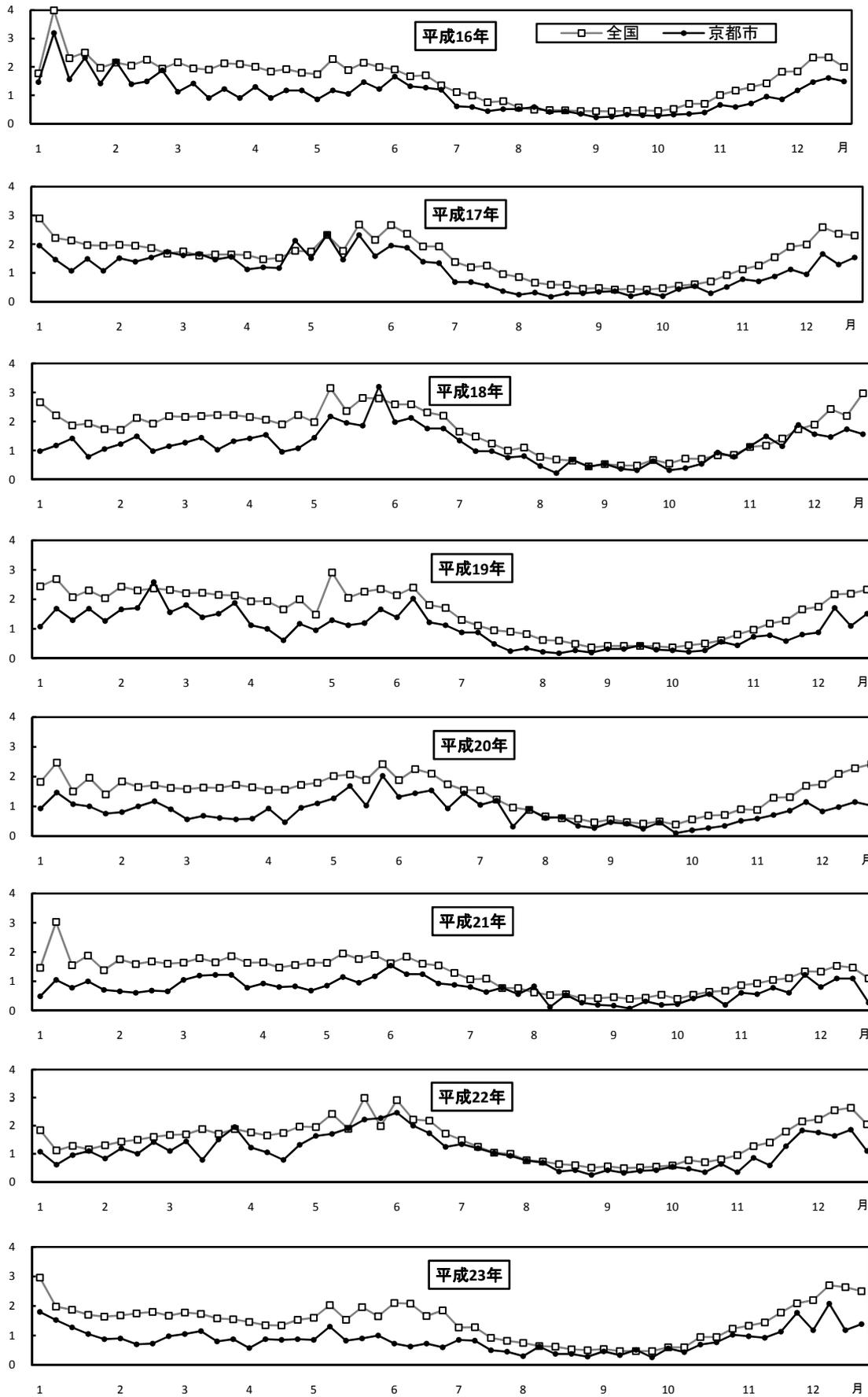
感染性胃腸炎

週別定点当たり報告数の推移



水痘

週別定点当たり報告数の推移



(カ) 手足口病

平成 23 年は、年間報告数 3,469 例、年間年間定点当たり報告数 87.19、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 3.52、前年比 2.21 であった。

年間年間定点当たり報告数は、昭和 57 年 4 月に京都市感染症サーベイランス事業が開始されてから最も多い値となった。

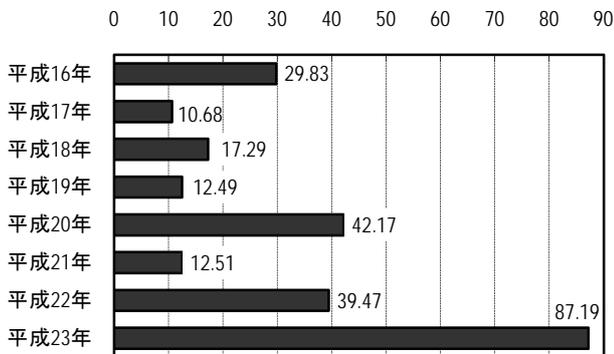
月別年間定点当たり報告数が多かったのは、7 月 (40.15)、8 月 (13.05)、6 月 (12.53) の順で、夏期に多かったが、9 月以降も例年に比べ多い状態が続いた。

週別年間定点当たり報告数は、第 28 週 (7 月) にピーク (12.68) となり、過去 7 年間のピーク値 (0.61~3.80) の 3 倍以上となった。

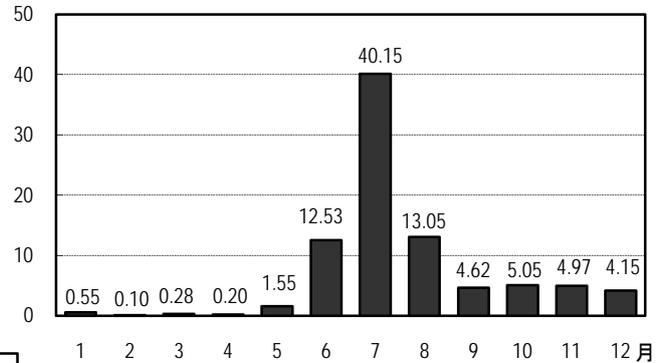
年齢階級別割合が高かったのは、1 歳 (29.5%)、2 歳 (20.0%)、3 歳 (12.8%) の順で、6 箇月~4 歳が 81.3%を占めた。

詳細は、[患者情報 1](#) (平成 23 年のトピックス)「(1) ウ 平成 23 年 手足口病のまとめ」を参照。

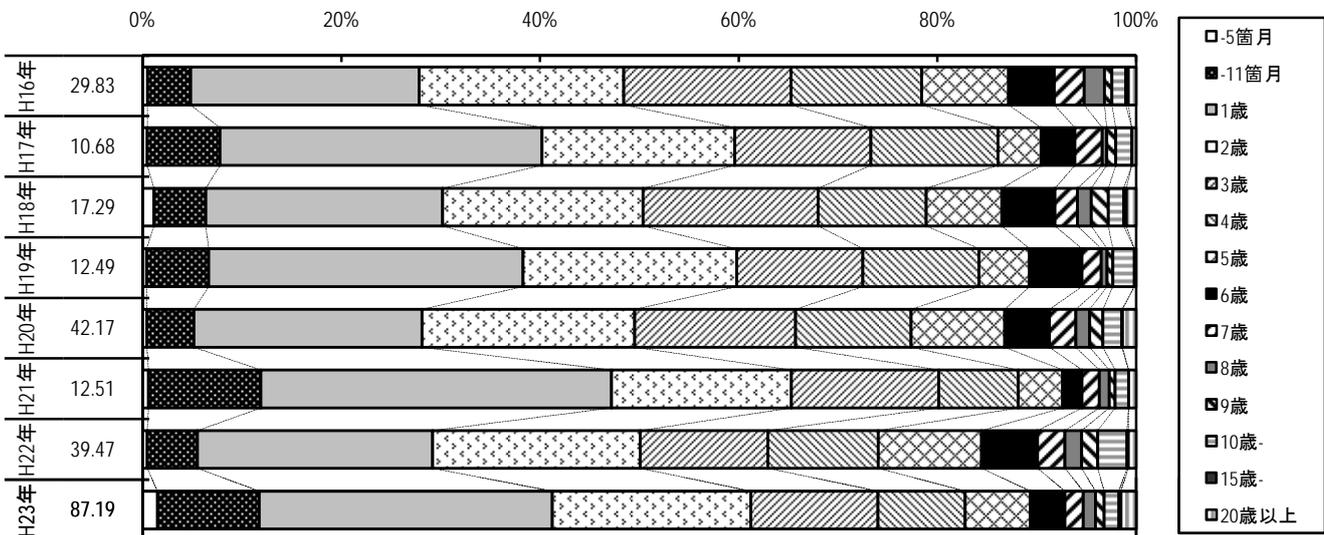
年次別定点当たり報告数



月別定点当たり報告数

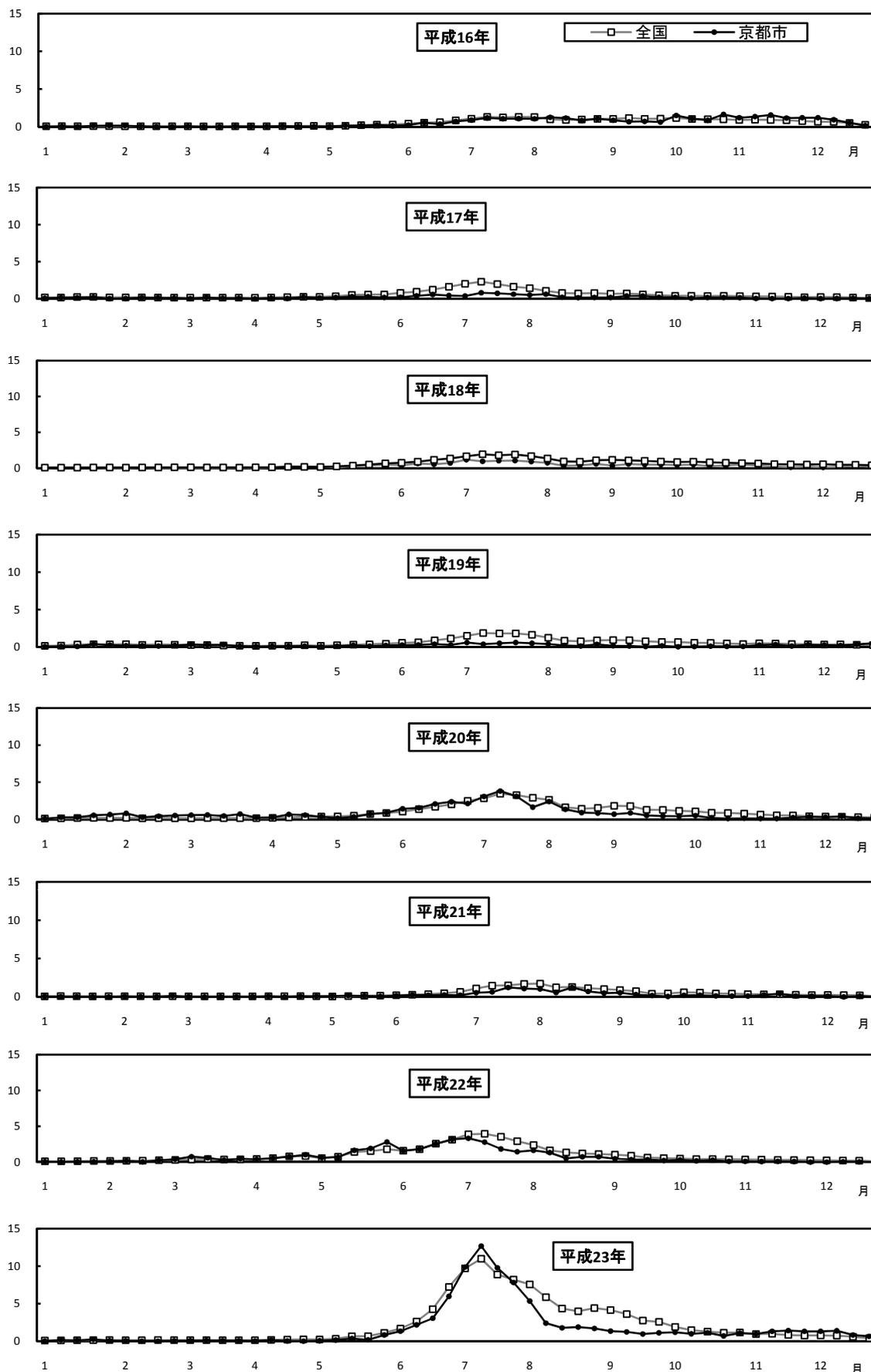


年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



手足口病

週別定点当たり報告数の推移



(キ) 伝染性紅斑

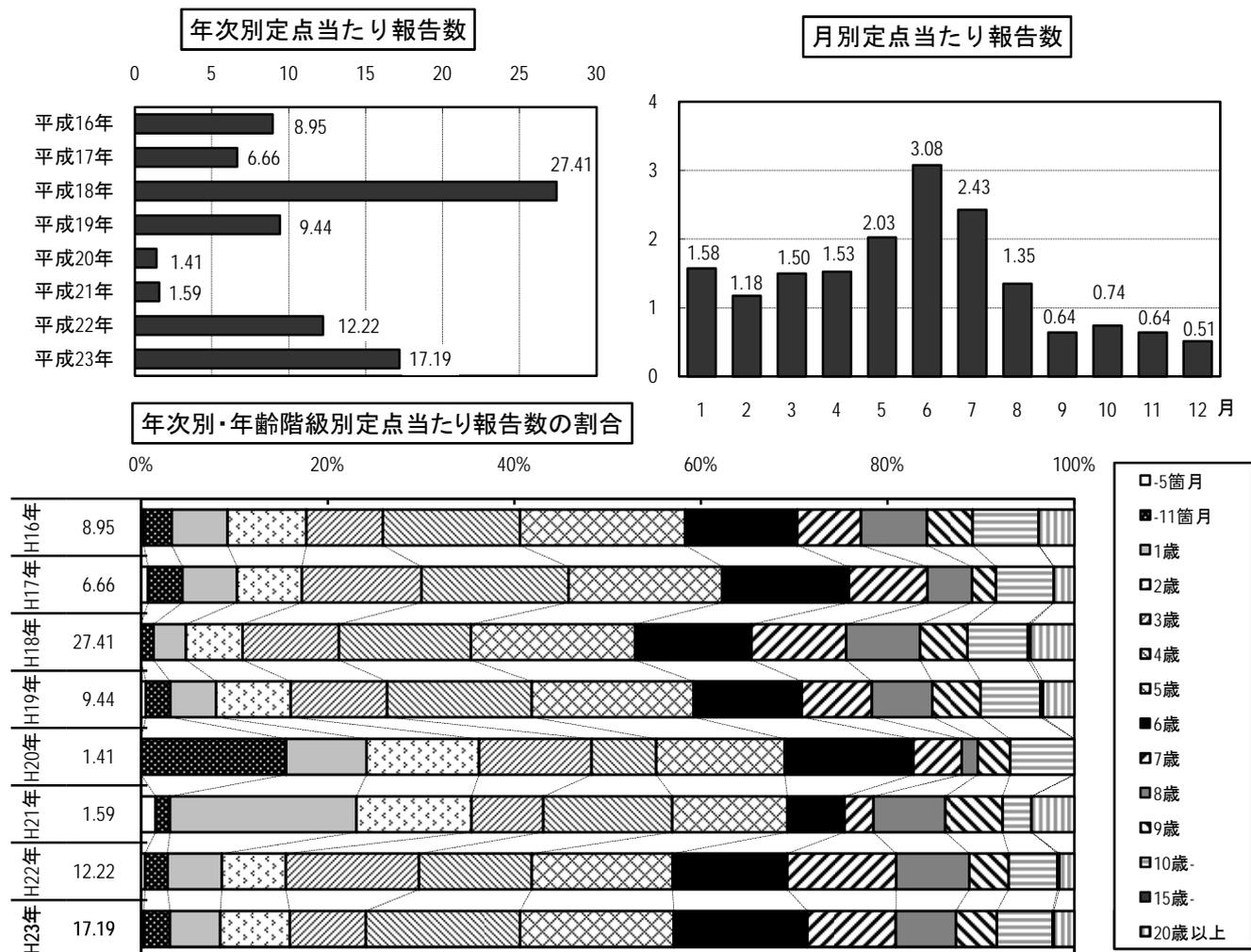
平成 23 年は、年間報告数 685 例、年間年間定点当たり報告数 17.19、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 1.65、前年比 1.41 であった。

過去 7 年間の年間年間定点当たり報告数 (1.41~27.41) と比べると、平成 18 年に次いで多かった。伝染性紅斑は、数年おきに流行を繰り返している。平成 18 年~平成 19 年の流行の後、平成 22 年から報告数が増加し始め平成 23 年第 25 週 (6 月) にピークとなった。

月別年間定点当たり報告数が多かったのは、6 月 (3.08)、7 月 (2.43)、5 月 (2.03) の順であった。

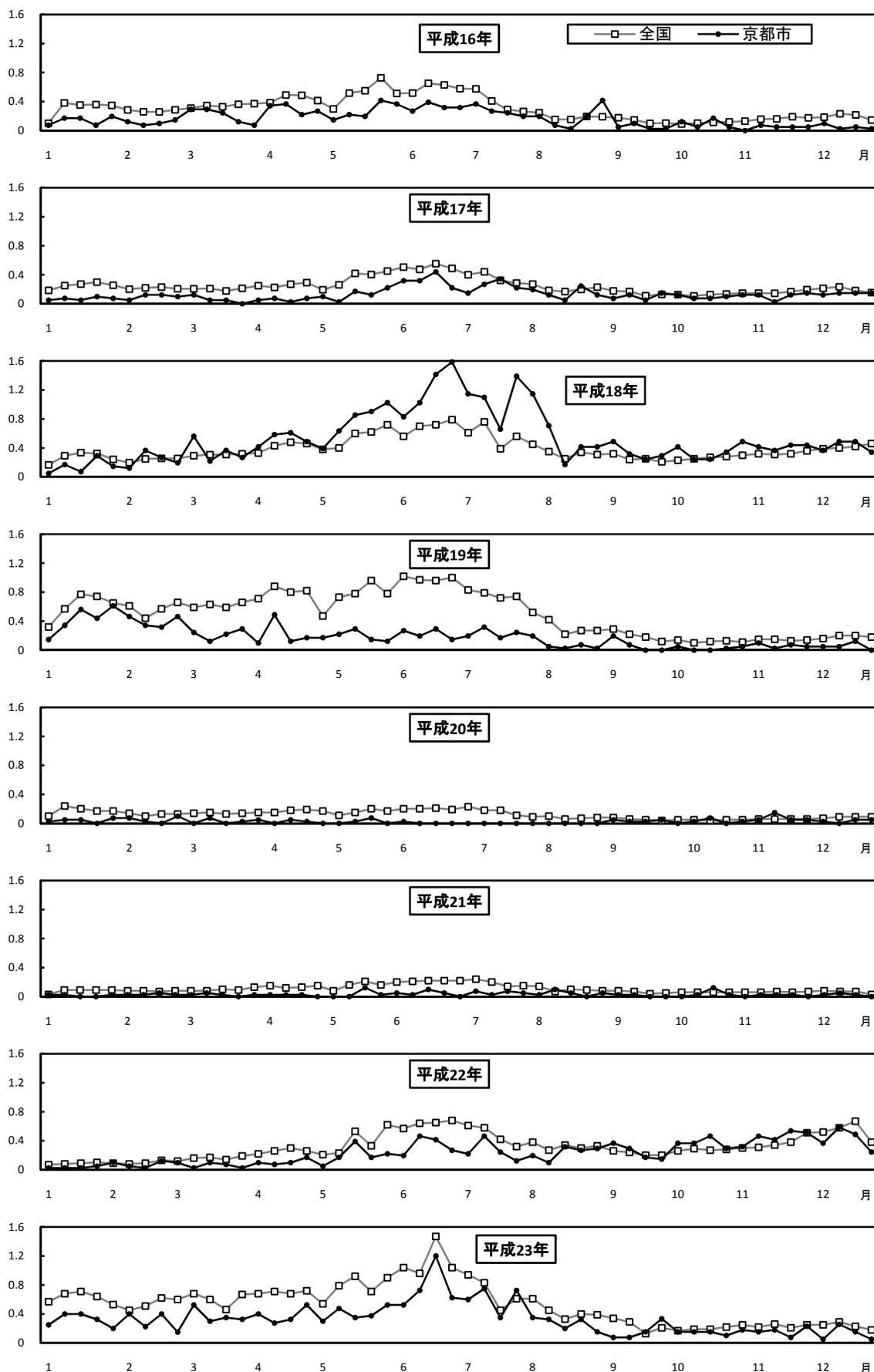
年齢階級別割合が高かったのは、4 歳 (16.5%) 及び 5 歳 (16.5%)、6 歳 (14.3%)、7 歳 (9.5%)、3 歳 (8.2%) の順で 3~7 歳が 65.0% を占めた。

詳細は、[患者情報 1](#) (平成 23 年のトピックス)「(1) エ 平成 23 年伝染性紅斑と流行性耳下腺炎のまとめ」を参照。



伝染性紅斑

週別定点当たり報告数の推移



(ク) 突発性発しん

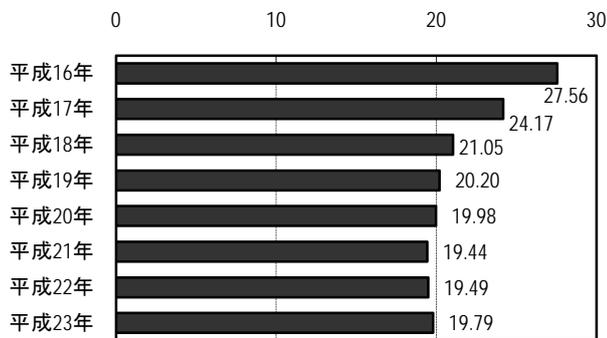
平成 23 年は、年間報告数 785 例、年間年間定点当たり報告数 19.79、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.99、前年比 1.02 であった。

過去 7 年間の年間年間定点当たり報告数（19.44～27.56）と比べると、平成 21 年、平成 22 年に次いで少なかった。

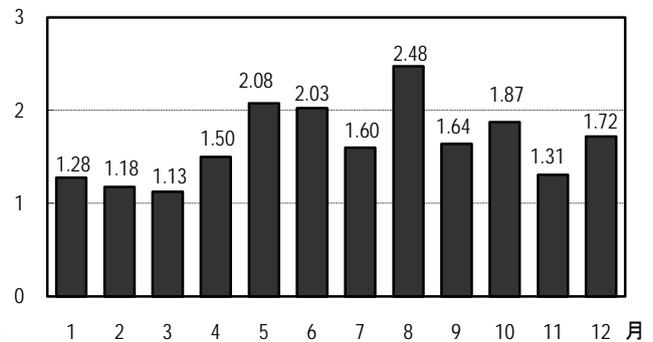
突発性発しんは、通年性の感染症で季節変動はあまりない。

年齢階級別割合が高かったのは、6～11 箇月（45.9%）、1 歳（43.8%）で、6 箇月～1 歳が 89.7%を占めた。

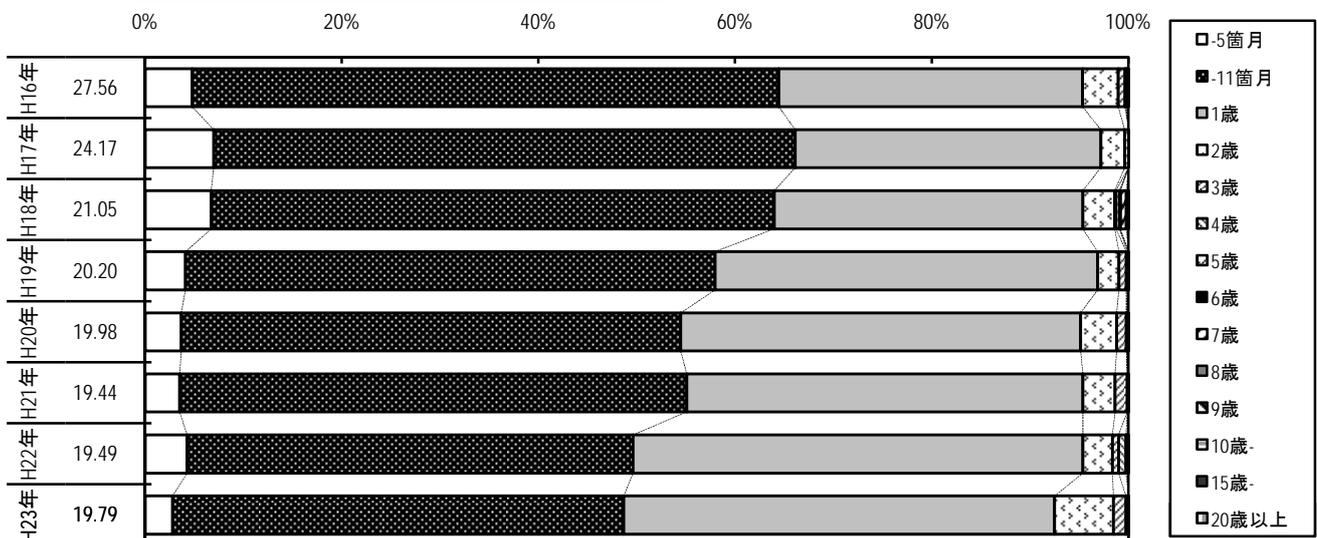
年次別定点当たり報告数



月別定点当たり報告数

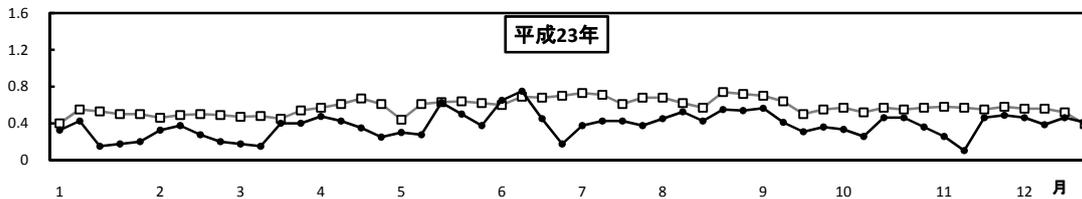
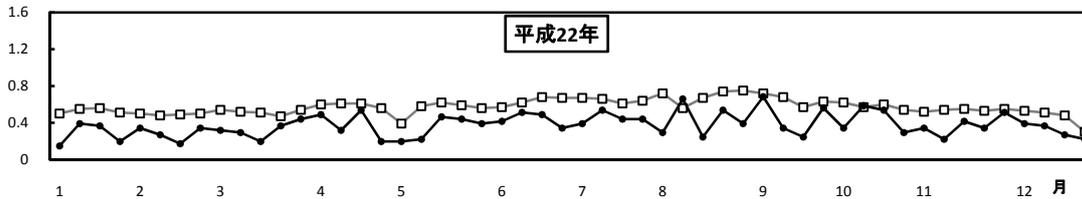
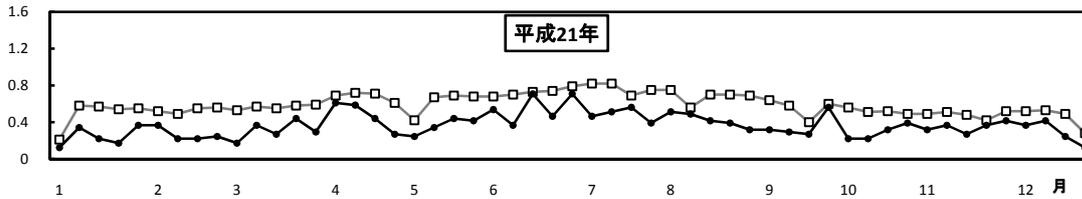
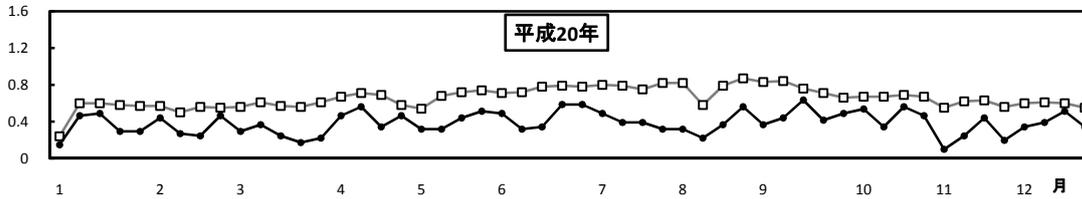
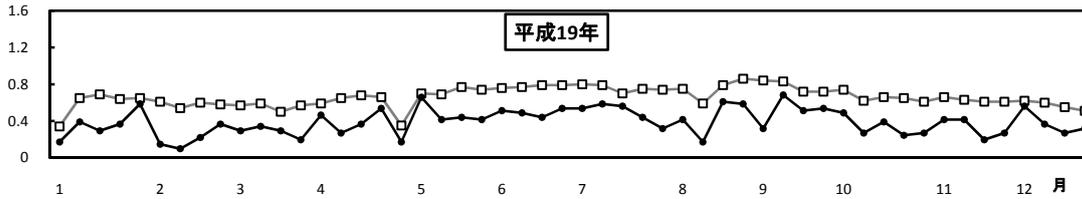
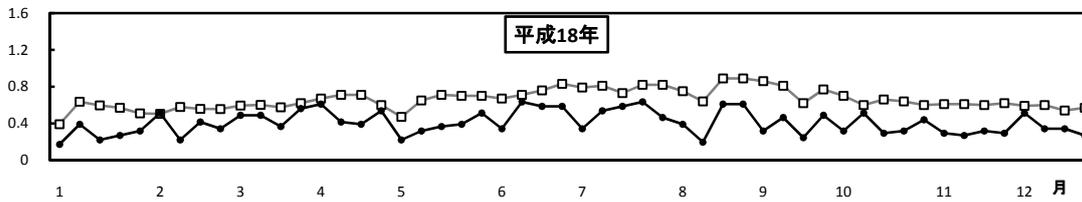
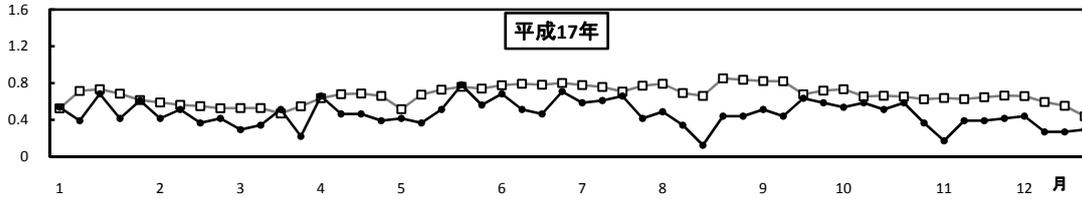
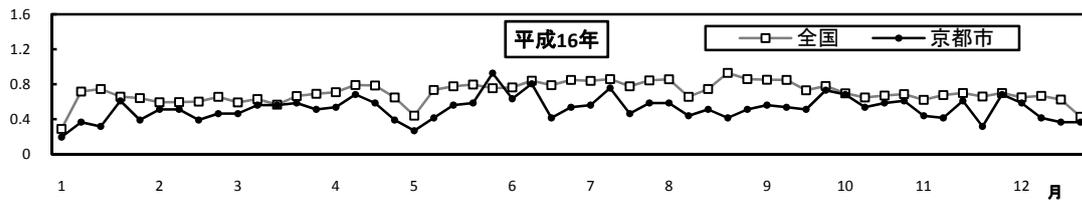


年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



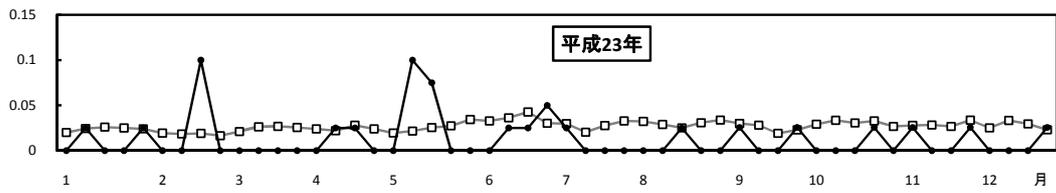
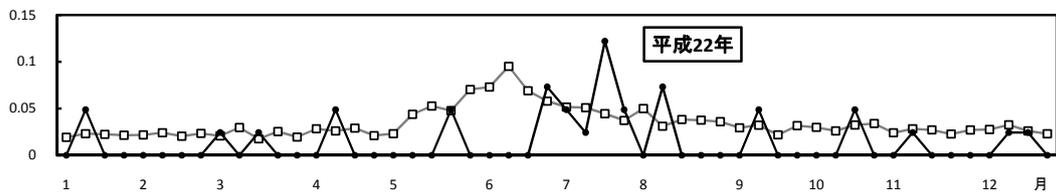
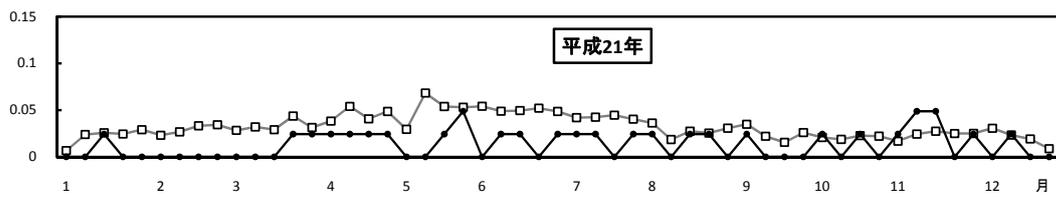
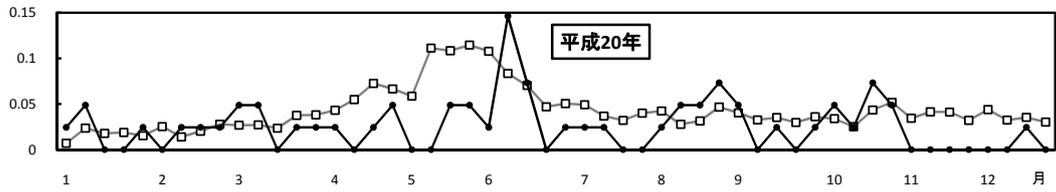
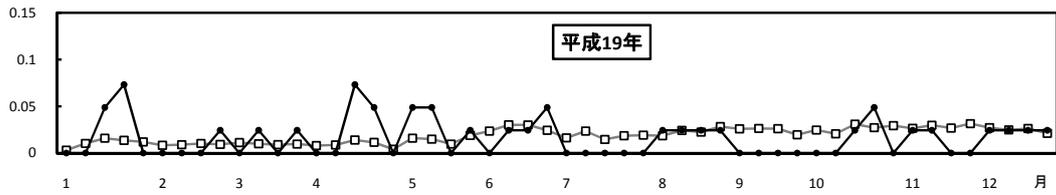
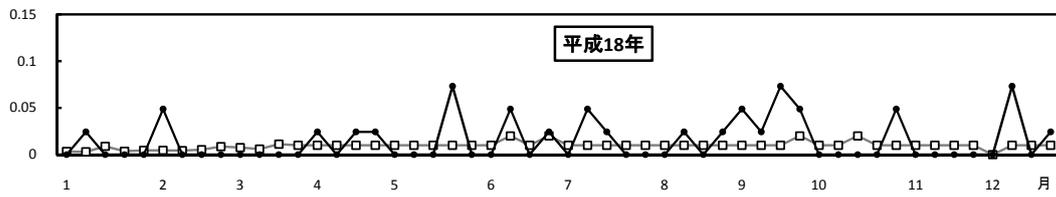
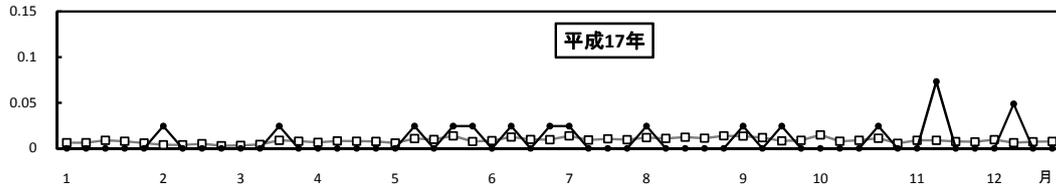
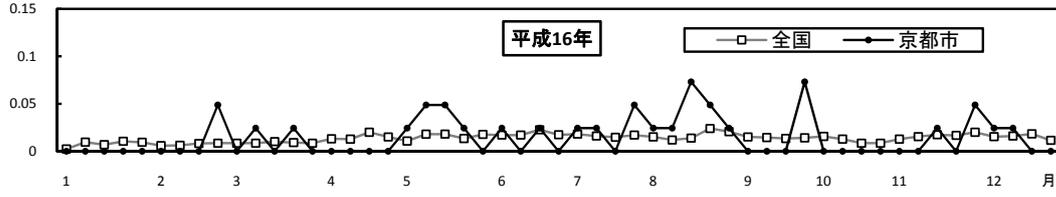
突発性発しん

週別定点当たり報告数の推移



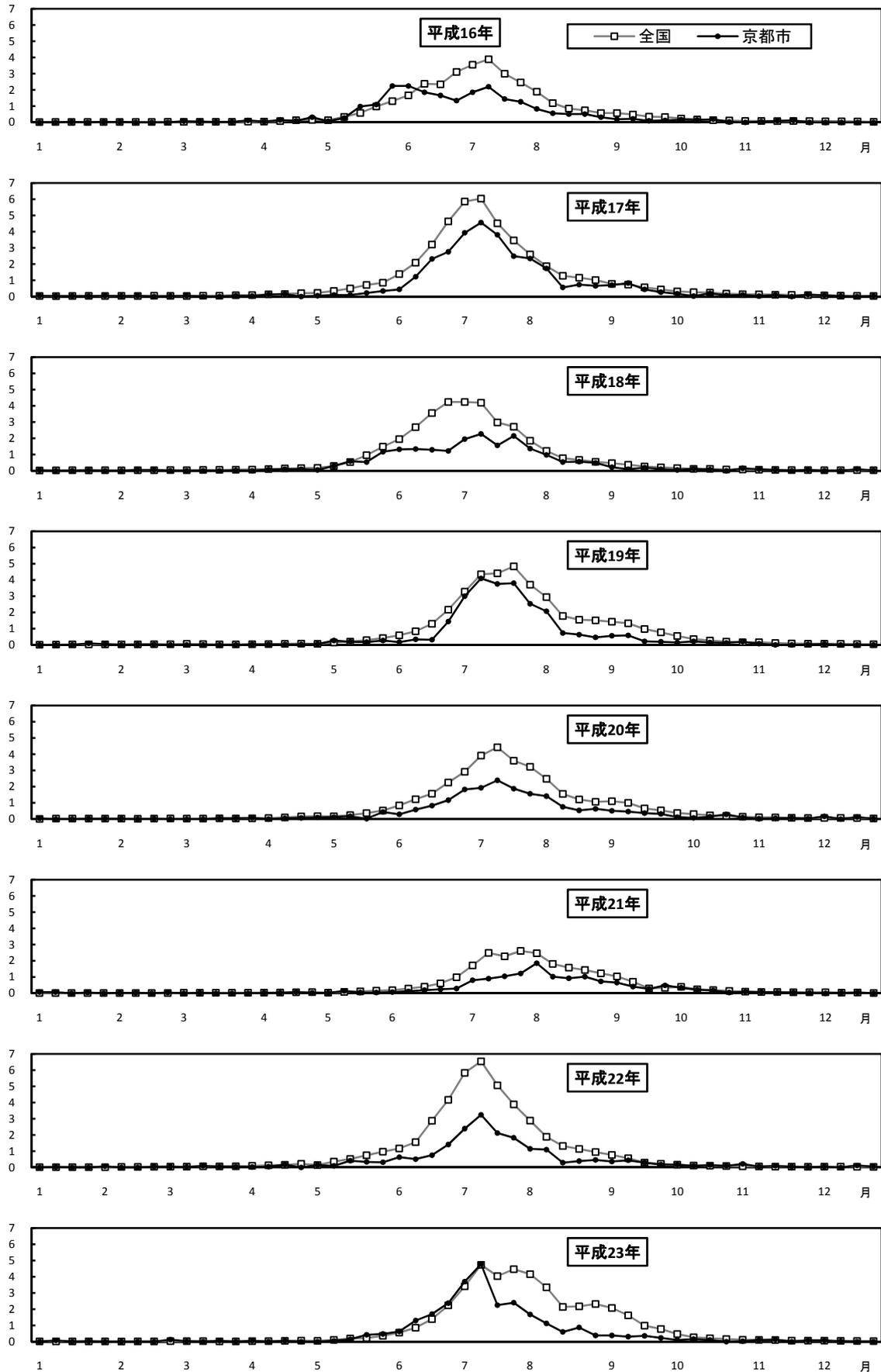
百日咳

週別定点当たり報告数の推移



ヘルパンギーナ

週別定点当たり報告数の推移



(サ) 流行性耳下腺炎

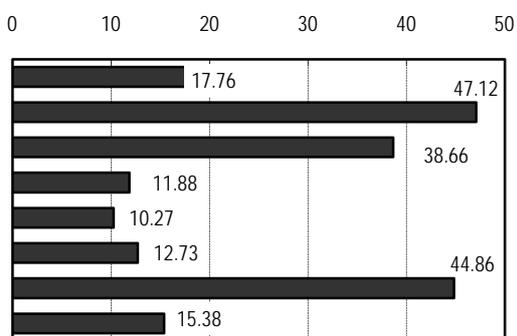
平成23年は、年間報告数611例、年間年間定点当たり報告数15.38、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.65、前年比0.34であった。

過去7年間の年間年間定点当たり報告数(10.27~47.12)と比べると、平成20年、平成19年、平成21年に次いで少なかった。流行性耳下腺炎は、数年おきに流行がみられ平成22年から平成23年1月まで報告数が多くなった。

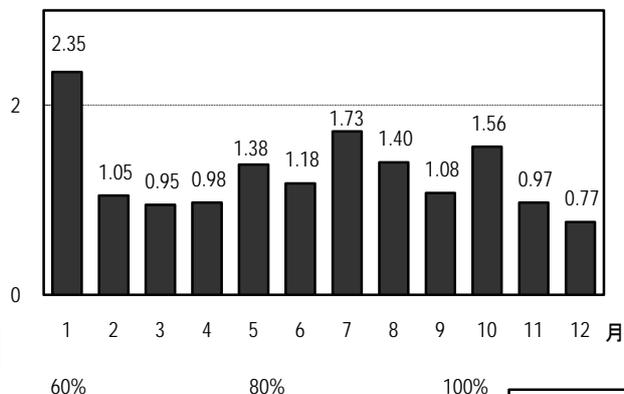
年齢階級別割合が高かったのは、4歳(16.2%)、5歳(14.7%)、3歳(13.7%)の順で、3~7歳が66.0%を占めた。

詳細は、[患者情報1](#)(平成23年のトピックス)「(1)エ 平成23年伝染性紅斑と流行性耳下腺炎のまとめ」を参照。

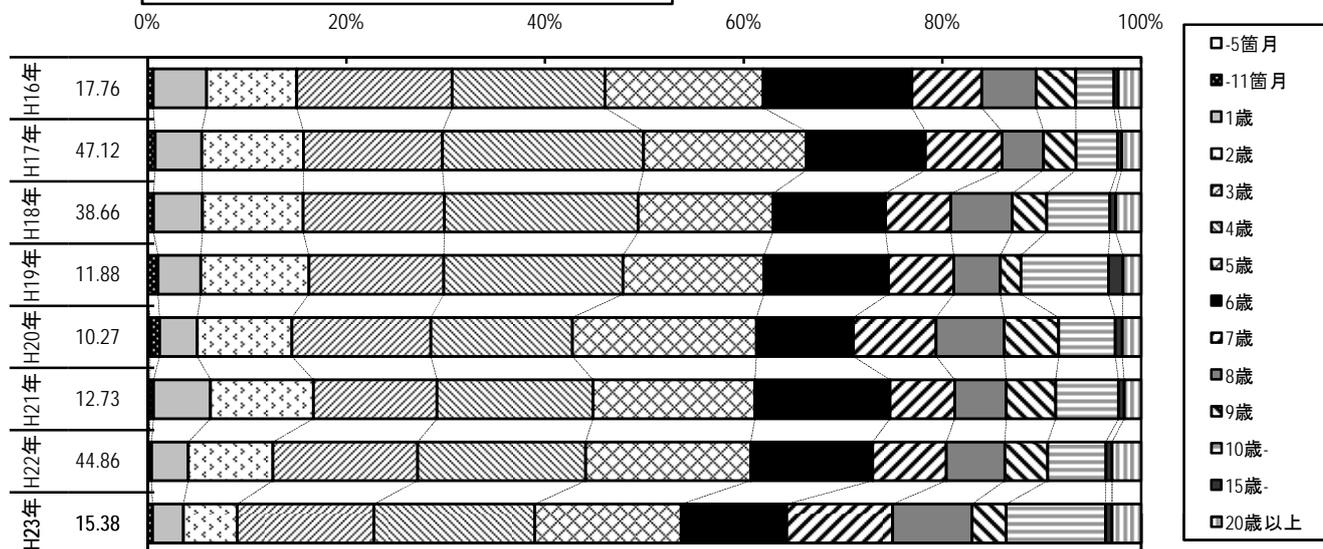
年次別定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



流行性耳下腺炎

週別定点当たり報告数の推移

